

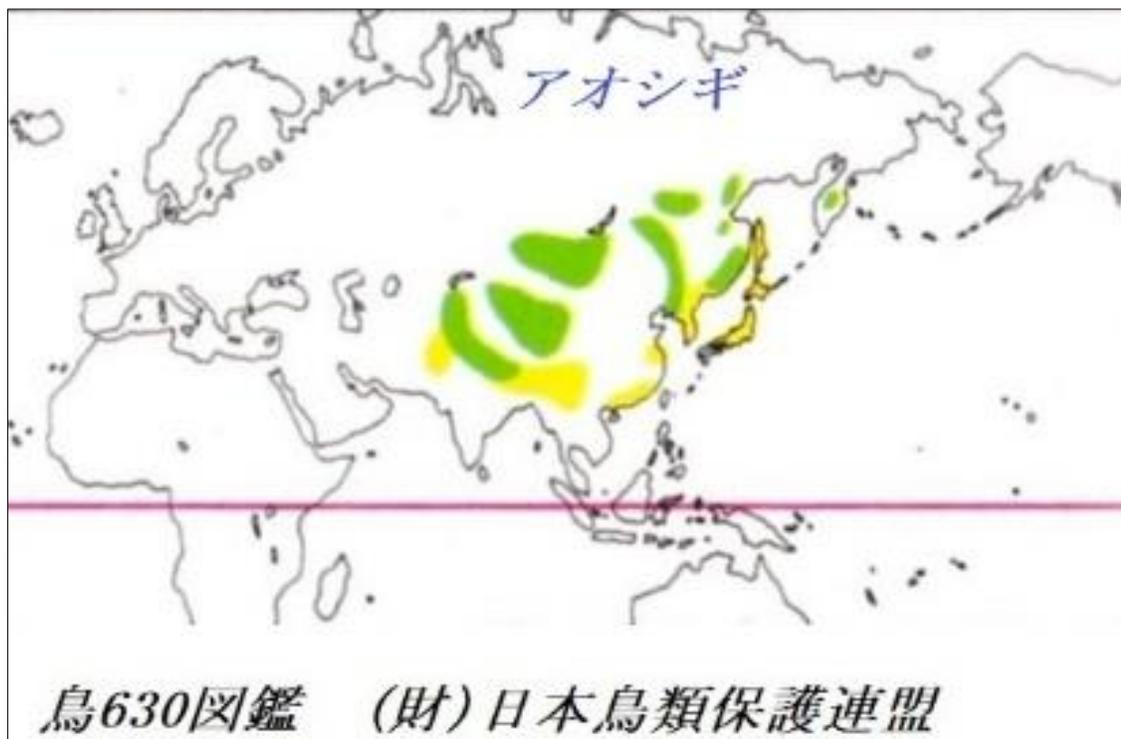
アオシギは里山の身近な
冬鳥です。

茨城県における生息状況とその生態
(龍ヶ崎市 岸久司)

本日のプログラム

- ①生息時期 ②生息環境
- ③群れを作らない ④行動範囲
- ⑤川底を探ってみました(何を食べているのか)
- ⑥年齢と性別、換羽
- ⑦屈伸運動の謎
- ⑧声、泳げる!
- ⑩県内にはいったい何個体越冬しているか?
- ⑪茨城のアオシギを探せ! ⑫個体識別は?
- ⑬アオシギの観察に気を付けている事(マナーについて)
- ⑭アオシギ(観察)の魅力は?
- ⑮バーダーのみなさまへ「自力で会える鳥です」

①生息時期(世界地図と分布)



その季の初認
(茨城県内、同一個体とは限りません)

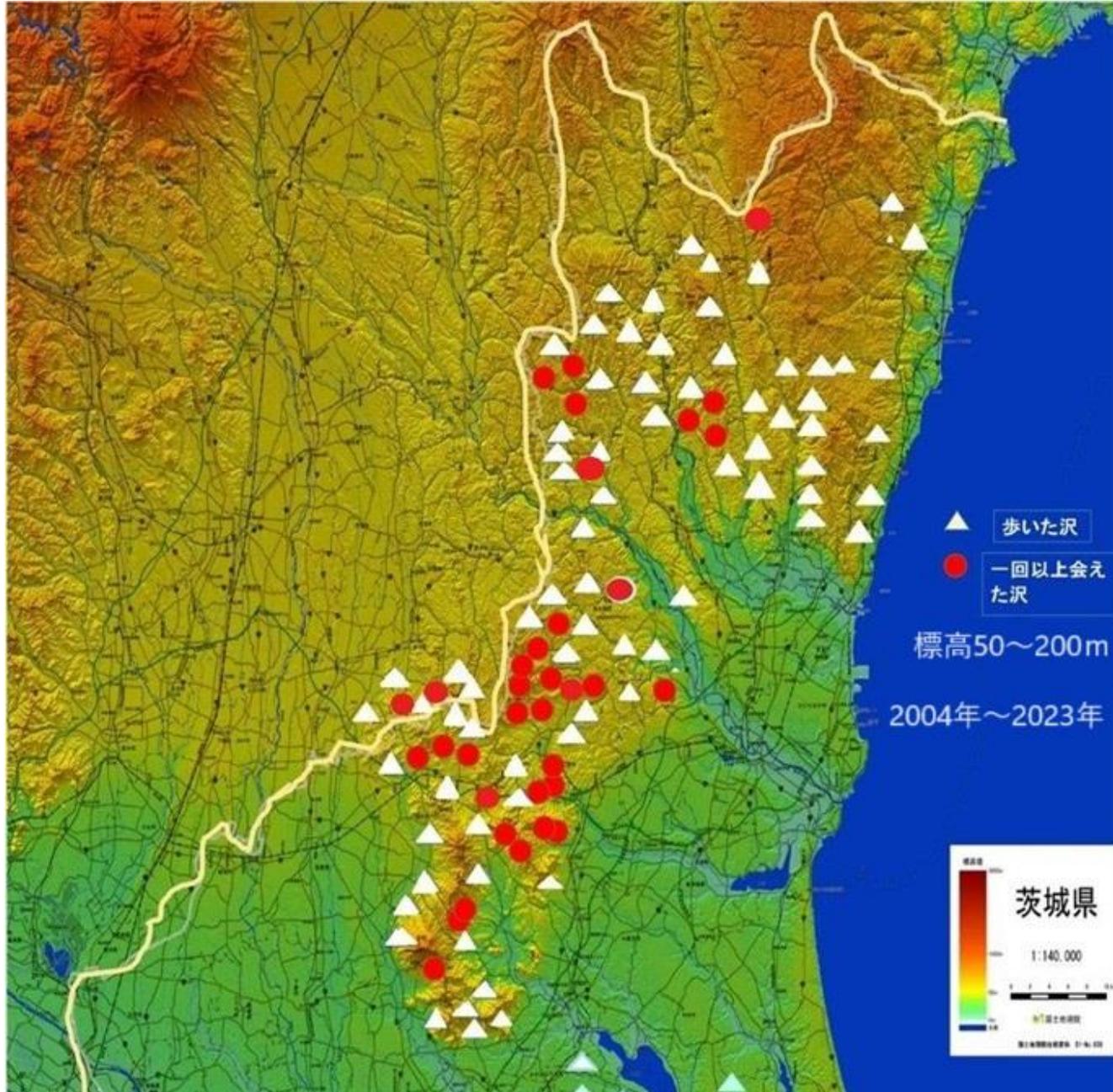
その季の終認

| | |
|------------|------------|
| 2024.10.30 | |
| 2023.10.31 | 2024.03.19 |
| 2022.11.06 | 2023.04.04 |
| 2021.11.07 | 2022.04.07 |
| 2020.11.13 | 2021.04.01 |
| 2019.11.12 | 2020.04.04 |
| 2018.11.10 | 2019.04.07 |
| 2017.11.13 | 2018.04.14 |
| 2016.11.15 | 2017.04.16 |
| 2015.11.28 | 2016.13.26 |
| 2014.02.01 | 2015.03.29 |
| 2013.02.09 | 2014.04.13 |
| 2012.12.24 | 2013.03.17 |
| 2011.12.04 | 2012.03.25 |
| 2010.12.11 | 2011.03.27 |
| 2009.12.13 | 2010.04.03 |
| 2008.12.28 | 2009.03.31 |
| 2007.01.07 | 2007.03.01 |

① 生息時期

| ジシギ類の渡来時期と環境(茨城県) | | 2022.07.01 更新 作成 岸久司 | | | | | | | | | | | |
|-------------------|-------------------|----------------------|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| | 環境 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| オオジシギ(成鳥) | 農道・休耕田 (水のいった) | ○ | | | ○ | | | | | | | | |
| オオジシギ(幼鳥) | | | | | | ○ | | | | | | | |
| チュウジシギ(成鳥) | 農道、畔、 乾いた水田 | ● | | | | ● | | | | | | | |
| チュウジシギ(幼鳥) | | | | | | ● | | | | | | | |
| ハリオシギ(幼鳥) | 畔、水田 | | | | | ○ | | | | | | | |
| タシギ(成鳥・幼鳥) | 水辺 | ● | | | | ● | | | | | | | |
| アオシギ | 里山の水の中 | ● | | | | | | ● | | | | | |
| ヤマシギ*参考 | 雑木林・畑 | ● | | | | | | ● | | | | | |

②生息環境

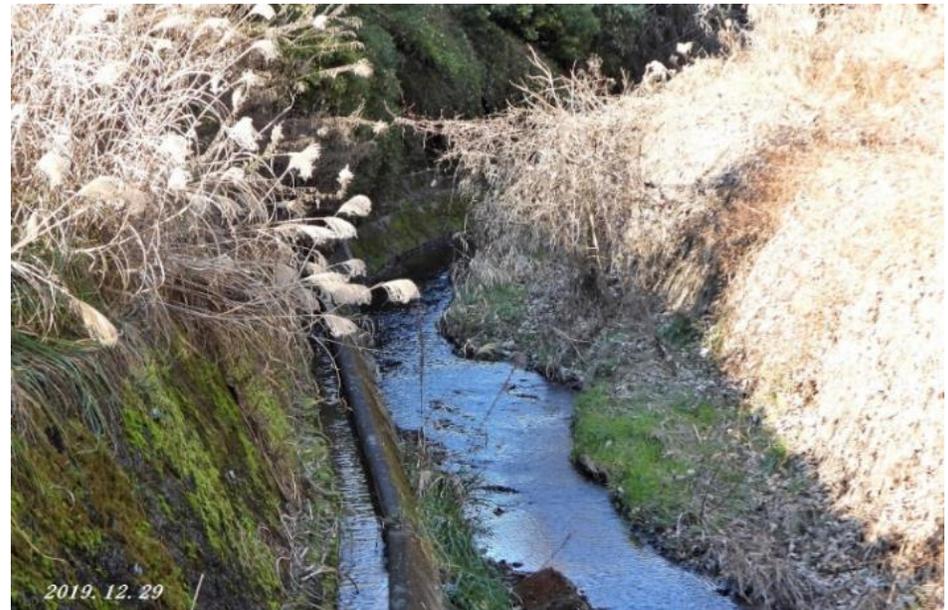


- ・2004年～2023年観察記録
- ・標高は約50m～200m
- ・里山の山裾を流れる棚田の入り口
*夏はオニヤンマや
ゲンジホタルが見られる環境
- ・水の中で採餌している事が多い
- ・日陰を好み、日向にはめったに出てこない

② 生息環境



②生息環境(日陰を好む)



堀が深く、川底は浅く、水生昆虫が生息

③群れを作らない

英名では「Solitary Snipe」で単独を意味しているようです。

①一つの沢には1羽がほとんど、よく会える沢では2個体生息していましたが、その距離は500mほど離れていました。

②なぜ単独行動? メリット・デメリット?

警戒心は非常に強い。

④行動範囲

よく会える沢では約200m の範囲内で採食していると思われ、高い確率で会えました。

ただし個体によっては、2 週間ぐらいでその沢から見当たらなくなるのもいるので、絶えず移動している個体もいるのかも知れません。

⑤何を食べているのか(沢にいる理由)



⑤何を食べているのか



⑤何を食べているのか(採餌の嘴)



ミミズは主食ではなくたまたまその場に
にしたもの、おとなしくさせてから飲
み込んでいました。

⑤川底を探ってみました! 沢A標高115m



⑤川底を探ってみました。沢B標高46m



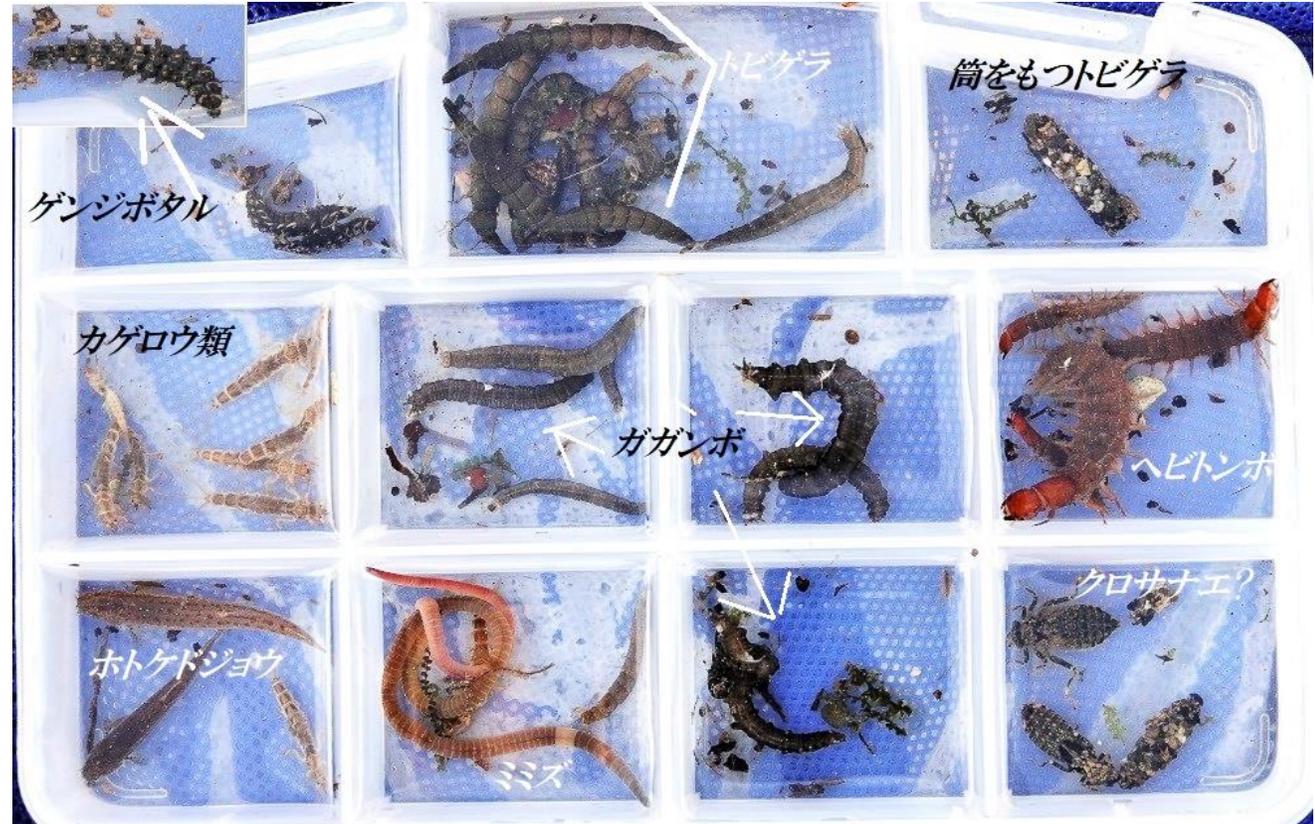
⑤川底を探ってみました。沢C標高115m



⑤川底を探ってみました。沢D標高53m



⑤川底を探ってみました。沢E標高84m



⑥換羽 (冬羽)



⑥換羽 10月末に渡来した個体 (摩耗した夏羽か幼羽)



⑥換羽 (冬羽・腋羽)



⑥換羽 (冬羽～夏羽)4月中旬



⑥年齡(成鳥)12/22



⑥年齢(おそらく幼鳥12/18)



⑥性別

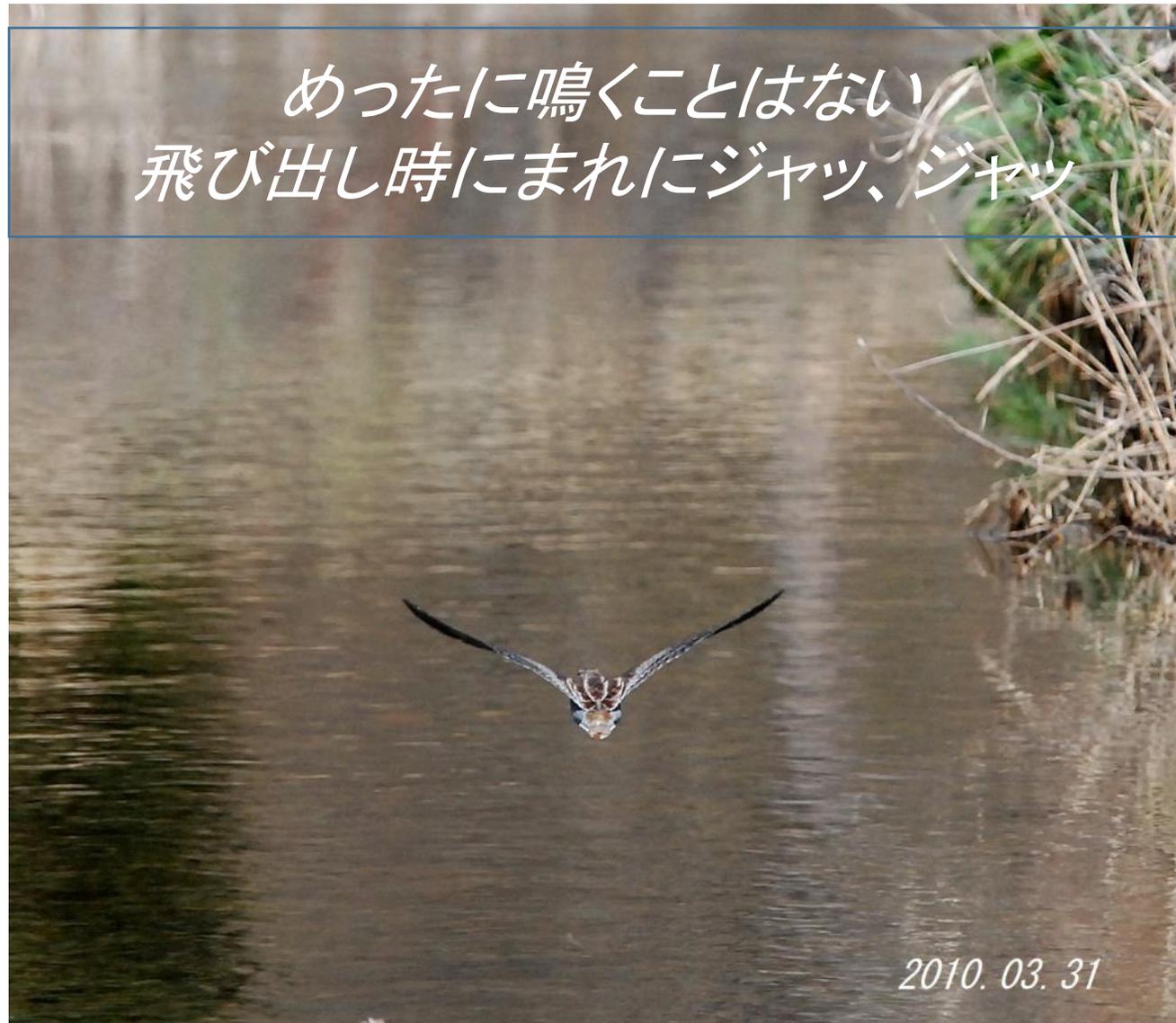
?

⑦屈伸運動の謎

採餌中に上下運動していることが多く、
嘴を動かすために必要な運動?

⑧声

めったに鳴くことはない
飛び出し時にまれにジャツ、ジャツ



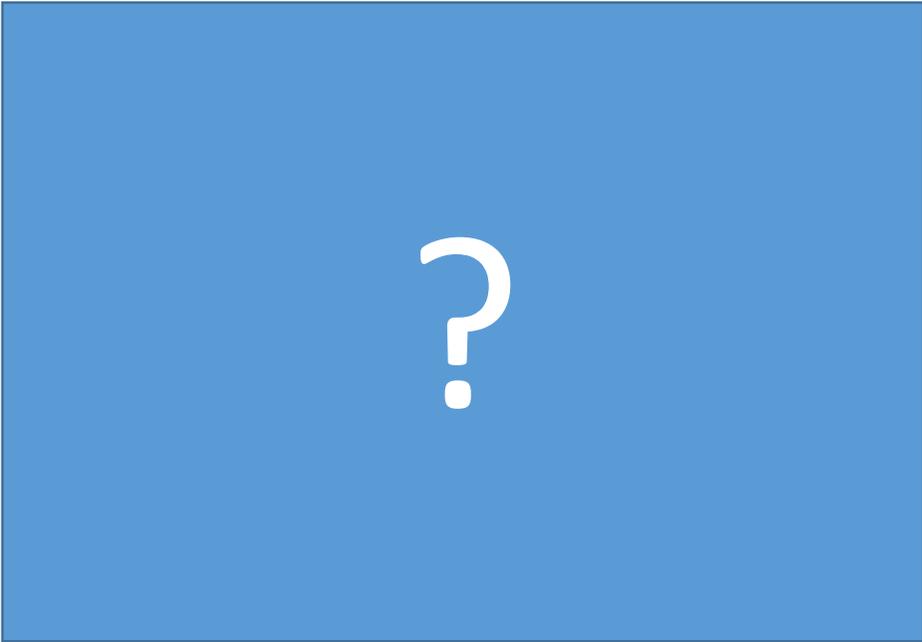
2010. 03. 31

⑧-2 泳げる!



2020.12.25

⑩県内にはいったい何個体越冬しているか。



?

⑪ 毎年同じ沢には同じ個体が来ているか？



2018年2月



2018年11月



2019年1月



2021年4月



2021年11月

2018年11月と2019年1月
は同じシーズン内で同
じ個体と思われます。

他の個体は微妙に太
さや形が異なって見
えます。

4年連続同じ沢の
ポイントでの
観察



頭部に特徴があり同一
個体と思われます。

⑫茨城のアオシギを探せ!



⑫茨城のアオシギを探せ!



⑫茨城のアオシギを探せ!



⑫茨城のアオシギを探せ!



⑫茨城のアオシギを探せ



⑫茨城のアオシギを探せ

11

12



13

⑫茨城のアオシギを探せ(最後)



14

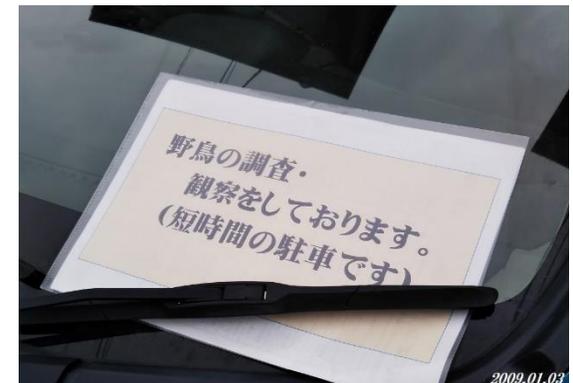


⑬ アオシギの観察に気を付けている事 (マナーについて)

沢沿いをゆっくりと歩いては停止し、双眼鏡で遠くの怪しい場所に当たりをつけて探します。これの繰り返しです。

① 深追いはしないで次回に尋ねる方が、会える可能性が高くなります。

② 人家のそばの水路にも生息していることがあります。地元の方には積極的に挨拶をして、素性を説明します。「野鳥観察中です」の腕章や胸のカードと名刺はいつも身に付けています。



⑭アオシギ観察の魅力は？

- ・個体数は少なく、県内の生息状況の全容が不明。
- ・食べ物や行動範囲は？
- ・魅力的な保護色で探すのが楽しみ！

⑮ 「アオシギは自力で会える鳥です」

ぜひご自身の足で探してみてもいいでしょうか。

①少し根気がいりますが、自宅に近い沢から初めて、だんだんと遠くの沢を探すとよろしいかと思えます。

②計画はネットやスマホで事前に地図上の沢を見つけておいて、現地ではカーナビを活用するとよいでしょう。証拠写真は軽くて手持ちでズームを活かしたカメラが良いでしょう。

ぜひご自身のアオシギを探してみてください。



終了です!

ありがとうございました。

2020.04.01